



2026年1月11日

◎令和8年 東大和市消防出初式

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

新春にあたり東大和市消防団の出初式が、挙行されました。

本年度も式典前に消防車両のパレードがあり、その後「S&D フィールド桜が丘」にて、表彰や消防演技が披露されました。朝方の曇天から打って変わってきれいな青空の半日となり、多くの市民の方々が式典の様子を見学されました。

東大和市消防団第七分団では、出初式に先立ち受付が行われ、当防災協議会ははじめ、お世話になっている近隣自治会・管理組合や商店街の方々が、ご挨拶に伺いました。又午後には、2020年1月以来6年ぶりとなる第七分団式典が、分団詰所にて行われ、分団隊員と地域住民数名との懇親会で親交を深めさせて頂きました。



★市内パレード(8:20～9:20)



東大和市立第二小学校を
消防車両9台が出発。
1時間ほどの市内パレード
を行いました。



★消防出初式(パレードに続き、式典9:50～12:20)

(番号はP10の「式次第」に従って)

1. パレード

2. 入場行進(指揮:目黒副団長)



本部

第1分団



第2分団



第3分団:喪中につき不参加

第4分団



第5分団



第6分団



第7分団



3. 整列

4. 開式の辞(野口副団長)



5. 国旗掲揚



6. 団旗奉迎
(尾崎副団長)



7. 人員及び機械器具の報告



8. 市長式辞
(和地市長)



9. 団長訓示
(並木団長)



10. 市議会議長挨拶
(木戸岡副議長)



11. 消防署長挨拶
(岡田北多摩西部消防署長)



12. 表彰
(1)東京都三多摩消防団連絡協議会長表彰
優良表彰(第五分団)



(2)東京消防庁北多摩西部消防署長表彰
①優良表彰(第二分団、第四分団、第七分団)



②応急救護指導活動功労表彰(内野第五分団員)

(3)東大和市長表彰

①功績表彰(板谷第一分団長、石川第四分団長、川嶋第二分団長)



②竿頭綬表彰(第一分団)



(4)東大和市消防団長表彰

①永年勤続表彰 30年(佐藤第六分団員)



②永年勤続表彰 20年(高石第五分団班長 他3名)



③永年勤続表彰 15年(石川第四分団長 他6名)



④永年勤続表彰 10年(小原第七分団長)



⑤精勤表彰(武田女性部団員 他21名)



⑥退団者感謝状(岡本女性部団員 他7名)

13. 観閲



14. 消防演技に伴う隊形移動

15. 車両分列行進(指揮:野口副団長)

本部



やまとなでしこ



第1分団



第2分団



第3分団:喪中につき不参加

第4分団



第5分団



第6分団



第7分団



特別消火中隊



災害時三隊
①災害時ポンプ隊



災害時三隊
②機動二輪隊



災害時三隊
③特別活動隊

16. 第53回東京都消防操法大会出場隊による操法演技



17. 消防演技(一斉放水)(指揮:尾崎副団長)



放水



消防少年団

18. 整列(指揮:目黒副団長)



19. 来賓祝辞



20. 団旗送還
(尾崎副団長)



21. 国旗降納(指揮: 目黒副団長)



22. 閉式の辞(尾崎副団長)



式 次 第

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| (1) バレード | 野口副団長 指揮 |
| (2) 入場行進 | 目黒副団長 指揮 |
| (3) 整 列 | 目黒副団長 指揮 |
| (4) 開式の辞 | 野口副団長 |
| (5) 国旗掲揚 | 目黒副団長 指揮 |
| (6) 団旗奉迎 | 尾崎副団長 |
| (7) 人員及び機械器具の報告 | 並木団長、他 |
| (8) 市長式辞 | 和地市長 |
| (9) 団長訓示 | 並木団長 |
| (10) 市議会議長挨拶 | 中村市議会議長 |
| (11) 消防署長挨拶 | 岡田北多摩西部消防署長 |
| (12) 表 彰 | 表彰代表者等 |
| (13) 観 閲 | |
| (14) 消防演技に伴う隊形移動 | 目黒副団長 指揮 |
| (15) 車両分列行進 | 野口副団長 指揮 |
| (16) 第53回東京都消防操法大会
出場隊による操法演技 | |
| (17) 消防演技(一斉放水) | 尾崎副団長 指揮 |
| (18) 整 列 | 目黒副団長 指揮 |
| (19) 来賓祝辞 | |
| (20) 団旗送還 | 尾崎副団長 |
| (21) 国旗降納 | 目黒副団長 指揮 |
| (22) 閉式の辞 | 尾崎副団長 |
- ※雨天時は一部変更します。

★東大和市消防団 第七分団

1. 受付(7時～)



2. 第七分団では次の方々が、午前中の出初式にて表彰されています。

(1)東京消防庁北多摩西部消防署長表彰

①優良表彰： 第七分団

(2)東大和市消防団長表彰

①永年勤続表彰 10年： 小原分団長

②精勤表彰： 竹田部長、三上班長、畠山団員

3. 第七分団式典(14:30～15:30)

①詰所案内装備披露



②懇親会



開会の辞



分団長挨拶



精勤表彰



乾杯



懇親会



AED 操作実演
第7分団の新団員(人形)と
AED です。



閉会の辞

東大和市消防団の現況

東大和市消防団は、本部（正・副団長）を中心に、7個分団（第一分団13名、第二分団16名、第三分団11名、第四分団15名、第五分団13名、第六分団18名、第七分団16名）及び女性部（「やまとなでしこ」）5名で組織し、現在111名の消防団員で活動しています。

機械装備の配備状況は、本部指揮車1台、広報車1台、各分団に消防ポンプ車1台、計9台の車両が配置されています。

さらに、山林火災や大規模災害に備え、より機動力を発揮するため可搬式ポンプ及び発電機が全分団に配備されています。

こうした現有装備を有効に活用し、市民の生命・財産を守るため、日夜訓練を実施しています。

～また、防災活動として、従来からの警戒活動などの他、自治会や地域防災組織で行われる防災訓練で、初期消火訓練、AEDを使用した応急救護訓練の指導を数多く行い、市民の災害対応能力のレベルアップに努めています。

東大和市消防団では、大規模災害時における消防団のあり方について検討を行い、平成20年4月に『災害時ポンプ隊・機動二輪隊・特別活動隊』の災害時三隊を発足させました。

《災害時三隊の特徴》

①災害時ポンプ隊

同時多発的に発生した火災に対応するため、配備されている資機材を最大限活用することを目的に発足しました。各分団のポンプ車で対応しきれない場合に団員所有の貨物車等に必要な資機材を積載し、第二ポンプ隊として活動します。

②機動二輪隊

大震災の発生に伴い、建物の倒壊、道路の損壊等により、市内の被害状況の把握が困難な場合に、機動力に優れた二輪車を活用して情報収集することを目的として発足しました。団員所有の二輪車2台1組で受持区域の情報を収集します。

③特別活動隊

大震災の発生に伴い、多くの建物が倒壊し、下敷きになっている要救助者がある場合に、団員個々の特殊技能や団員所有の資機材（重機等）を活用して、一人でも多くの人命を救助することを目的に発足しました。消防団本部は、被害状況により有資格者及び資機材（重機等）を選定、招集し、担当副団長を総指揮者として活動します。

<構 成>

階 級	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	総 数
団員数	1	3	7	7	15	15	63	111

令和 8 年 東大和市消防出初式



と き・令和8年1月11日（日）
午前9時50分開式
ところ・S&Dフィールド桜が丘

ごあいさつ

令和8年の輝かしい新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
本日、皆様のご理解とご協力のもと、伝統と格式ある東大和市
消防出初式が挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

消防団員の皆様におかれましては、日夜、揺るぎない使命感
のもと、火災や災害から市民の生命・財産を守るためご尽力
頂いております。その献身的な活動に深い敬意を表すとともに、
厚く御礼申し上げます。

市といたしましては、今後も市民の皆様が安全・安心を実感できるよう、より一層
の防災体制の充実と強化に努めてまいる所存であります。皆様におかれましては、
引き続きのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶と
いたします。



令和8年 新春

東大和市長 和 地 仁 美

令和8年東大和市消防出初式が挙行されるにあたり、
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

ご臨席を賜りました皆様方には、平素からご指導、ご鞭撻を
いただきまして、厚く御礼申し上げます。

私ども東大和市消防団は、市民の皆様の生命と財産を災害
から守るため、一致団結し活動しております。

今後も、地域防災の要であることを自覚し、さらなる研鑽を
積んでまいる所存でありますので、より一層のご支援とご協力
をお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶と
させていただきます。



令和8年 新春

東大和市消防団長 並 木 史 浩

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

(全国統一防火標語)

『火の用心 7つのポイント』

- ①家のまわりに、燃えやすい物を置かない。
- ②寝タバコやタバコの投げ捨てをしない。
- ③揚げものを揚げているときは、その場を離れない。
- ④子どもには、マッチやライターで遊ばせない。
- ⑤ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

(給油のときは、完全に消火を確認して！)

- ⑥電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
- ⑦風呂の空だきに注意。

『出初式の由来』

出初式は、万治二年（1659年）上野東照宮で宮火消（武家火消）が消防にはげむことを神前に誓ったのが始まりとされ、以来長い間の伝統として今日まで各地で続けられています。